

伊丹市地域包括支援センターの役割と平成 31 年度事業報告

1 地域包括支援センターの役割

本市では、支援が必要な高齢者の住み慣れた地域における生活を支援する地域包括ケアシステムの構築を目指し、基幹型地域包括支援センター1 か所、地域型地域包括支援センター 9 か所を設置している。

	役割
基幹型地域包括支援センター	・地域型地域包括支援センターの統括・センター間の連絡調整 ・市全域の支援体制・支援ネットワークの構築 ・支援困難ケース、権利擁護を必要とする事例について、地域型地域包括支援センターへのスーパーバイズや後方支援 ・ケアマネジャー、地域型地域包括支援センター職員の人材育成（研修会、連携会等） ・介護予防の推進 ・認知症ケア施策の推進 ・各圏域と市全体の課題を集約・分析し、生活支援コーディネーターと協働で必要な地域資源等の検討を実施
地域型地域包括支援センター	・総合相談業務 ・権利擁護業務 ・介護予防事業 ・包括的・継続的ケアマネジメント業務 ・指定介護予防支援事業及び第 1 号介護予防支援事業 ・地域ケア会議をはじめとする住民や多職種とのネットワーク形成 ・認知症ケアの推進

2 平成 31 年度 地域包括支援センター事業報告

各地域包括支援センターは、「地域住民の心身の健康の保持及び生活の安定のために必要な援助を行うことにより、その保健医療の向上及び福祉の増進を包括的に支援することを目的とする」（介護保険法第 115 条の 46）に基づき、高齢者が住み慣れた地域で安心して過ごすことができるよう地域における包括的および継続的な支援を行うため、下記の内容に取り組んだ。

1) 地域包括支援センター間の情報共有、連絡調整

地域包括支援センター事業実施計画に基づき、各包括が相互に連携し情報共有を図り、共通認識をもって地域包括ケアシステムを推進することを目的に以下の連携会議を開催した。

会議名（内容）	主な参加者	開催回数
・<u>地域包括支援センター管理者会議</u> 各包括の取組状況の確認や課題の共有により業務の標準化を図り、業務推進に向けた連携を促進	地域包括支援センター 管理者	隔月 1 回 (5 回)
・<u>権利擁護業務報告・レビュー会議</u> 虐待ケースの支援のあり方について、評価・共有するとともに虐待解消要因の確認及び支援の終結を判断	権利擁護業務担当者 (社会福祉士)	月 1 回 (11 回)

・ケアマネジャー支援会議 ケアマネジャーへの支援の具体的検討と取組み状況の共有・評価・情報交換	ケアマネジャー支援担当者 (主任介護支援専門員)	隔月 1 回 (6 回)
・介護予防事業連絡会議 介護予防推進に向けた一体的な取組みの具体的検討と取組み状況の共有・評価・情報交換	介護予防事業担当者 (保健師・看護師)	隔月 1 回 (6 回)

2) 総合相談・権利擁護業務

(1) 総合相談

基幹型包括支援センター及び地域型包括支援センターが関係機関と連携しながら必要な情報収集を行い、介護保険サービスをはじめとした制度の利用や関係機関・地域資源につなぐ等、高齢者等への総合的な支援を行った。

① 総合相談件数

年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度
相談者の実件数	10,723	12,185	13,623
相談内容の延べ件数	14,840	15,104	17,541

② 相談者の内訳

年度	本人・家族等	地域住民	地域包括	介護支援専門員	関係機関	その他	合計
H29 年度	4,461	1,640	899	1,689	1,826	208	10,723
H30 年度	4,628	1,345	1,307	2,483	2,117	305	12,185
H31 年度	5,457	1,236	1,443	2,916	2,313	258	13,623

※関係機関…行政関係機関、警察、高齢者及び障害者施設、児童関係機関、医療機関等

③ 相談内容の延べ件数

	相談内容	H30 年度	H31 年度
サービス関連	①介護保険・総合事業サービス等	4,308	4,959
	②ケアマネジメントに関すること	798	1,256
	③保健・福祉サービス（介護保険外）に関すること	366	412
	④医療受診・リハビリ・看護等に関すること	670	924
	⑤住宅改修、改造及び福祉用具等の活用に関すること	411	555
	⑥地域の社会資源活用に関すること	257	212
	⑦障害福祉サービス等に関すること	95	123
	⑧サービスの苦情・要望等	71	82
介護生活相談関連	①福祉施設等の入退所	529	522
	②医療機関の入退院	809	1,124
	③生活支援に関すること	1,571	1,581
	④介護予防に関すること	173	112

	⑤認知症に関すること	1,114	1,123
	⑥生活困窮に関すること	150	152
	⑦介護相談（介護方法等）	72	57
	⑧安否確認	269	205
	⑨家族支援に関すること	453	491
	⑩近隣トラブル	246	219
	⑪支援拒否	59	72
権利擁護関係	①高齢者虐待に関すること （疑い含む）	1,752	1,985
	②消費者被害（第三者、悪質商法含む）	33	83
	③日常金銭管理や財産管理等	316	369
	④成年後見制度の利用支援等	170	264
	⑤権利擁護全般	38	67
その他		374	592
相談内容合計		15,104	17,541

（２）高齢者虐待への対応

高齢者等に対する虐待の予防及び早期発見に努めるとともに、虐待ケースが発見された場合には市地域・高年福祉課と基幹型包括支援センター、地域型包括支援センターが連携し、速やかにコアメンバー会議（支援方針決定会議）を開催することにより、必要な対応を検討し高齢者本人や家族に対する適切な支援・継続的な見守りにつなげるよう取り組んだ。

① 虐待の新規相談・通報件数

	合計
H29 年度	103
H30 年度	107
H31 年度	148

平成31年度の虐待の相談・通報件数は148件（平成31年度からは、虐待でないと判断した件数も含む）。実態把握の結果、虐待を受けたと判断した事例は101件、虐待疑い事例は41件であった。また、継続支援中の被虐待者の養護者追加が1件、コアメンバー会議開催の結果、虐待でないと判断したものが5件あった。（※養護者追加およびコアメンバー会議で虐待ではないと判断したものは各包括の集計からは除く）

② 虐待の種別・類型件数（複数回答）

	身体的虐待	介護等放棄	心理的虐待	性的虐待	経済的虐待	合 計
H29 年度	61(56.0%)	8(7.3%)	26(23.9%)	0(0%)	14(12.8%)	109
H30 年度	67(52.3%)	11(8.6%)	38(29.7%)	0(0%)	12(9.4%)	128
H31 年度	86(47.5%)	13(7.2%)	69(38.1%)	0(0%)	13(7.2%)	181

③ 包括別虐待件数 ※養護者追加の1件、コアメンバー会議の結果、虐待でないと判断した5件は除く。

	① 継続支援件数 (H30年度末)	② 新規支援件数	新規支援件数の虐待種別・類型 (複数回答)					③ 終了件数	④ 継続支援件数 (H31年度末)
			身体的虐待	介護等放棄	心理的虐待	性的虐待	経済的虐待		
天神川・荻野 (伊丹荒牧デイサービスセンター内)	33	23	(17)	(1)	(6)	(0)	(2)	13	42
稲野・鴻池 (特別養護老人ホーム桃寿園内)	17	10	(9)	(1)	(3)	(0)	(0)	13	13
伊丹・摂陽 (伊丹中央デイサービスセンター内)	38	26	(17)	(3)	(12)	(0)	(2)	17	47
笹原・鈴原 (ラストホール内)	28	27	(11)	(1)	(19)	(0)	(2)	13	41
花里・昆陽里 (特別養護老人ホーム伸幸苑内)	9	10	(5)	(1)	(5)	(0)	(0)	7	12
桜台・池尻 (特別養護老人ホームあそか苑内)	14	11	(7)	(0)	(7)	(0)	(2)	3	22
神津・有岡 (特別養護老人ホーム協同の苑メイゾン・ときめき内)	23	11	(5)	(2)	(6)	(0)	(1)	3	33
緑丘・瑞穂 (在宅複合型施設ぐろ〜りあ内)	25	16	(12)	(2)	(8)	(0)	(4)	12	30
南 (特別養護老人ホームアリス千歳内)	10	8	(3)	(2)	(3)	(0)	(0)	4	14
計	① 197	② 142	(86)	(13)	(69)	(0)	(13)	③ 85	④ 254

(① + ②) 339 件 - ③ (85 件) = ④ (254 件)

④ 高齢者虐待の予防・防止に向けた地域への普及啓発

高齢者虐待の予防・防止に向けた共通認識を図るため、地域住民やケアマネジャー、事業所職員等を対象に高齢者虐待の予防・防止についての講座や意見交換会を平成31年度から実施した。

参加者は、地域住民・民生委員が延べ335名、ケアマネジャー・事業所等が延べ330名だった。地域住民や専門職それぞれの立場で、虐待についての理解を深め、その後、実際の相談につながったケースもあった。

	天・荻	稲・鴻	伊・摂	笹・鈴	桜・池	花・昆	神・有	緑・瑞	南	合計
地域住民 民生委員 児童委員	3 回	2 回	2 回	2 回	1 回	2 回	1 回	0 回	0 回	13 回
ケアマネ ジャー・ 事業所等	2 回	0 回	1 回	1 回	0 回	2 回	2 回	2 回	2 回	12 回

3) 介護予防事業

各地域包括支援センターは、地域住民に向けた介護予防の啓発を目的とした講座の開催や、地域組織において主体的に介護予防に取り組むことへの支援の他、認知症やロコモティブシンドロームのリスクが高い住民への個別支援等を行った。

(1) 一般介護予防事業

① いきいき健康大学

健康・介護予防に関する知識の普及啓発と健康づくりに取り組む動機づけを行うことを目的に開催した。

実施日	実施場所	参加延人数	内容
6月4日・7月2日	きららホール	94名	前半：講座 フレイル予防 口腔・嚥下 食事・栄養 服薬 認知症 ロコモティブシンドローム 高血圧・脳卒中 心疾患 特定健診 体組成測定 後半：体操、その他 介護予防のための体操 運転免許返納 消費者被害
6月5日・12日	ラストホール	46名	
6月13日・25日	スワンホール	58名	
7月4日・11日	緑丘体育館	74名	
11月18日・25日	伸幸苑野間	37名	
9月4日・11日	伸幸苑	56名	
9月5日・9日	東りいたみホール	77名	
10月15日・29日	神津福祉センター	58名	
11月28日・29日	サンシティホール	45名	
11月5日・12月3日	大野センター	69名	
10月23日・30日	南センター	47名	

(2) 介護予防活動の推進

地域住民が介護予防を効果的かつ継続的に推進するために、いきいき百歳体操継続支援事業の取り組みを中心に地域組織の支援を行った。

① いきいき百歳体操グループ数及び参加者数

	H29 年度		H30 年度		H31 年度	
	グループ数	参加者数	グループ数	参加者数	グループ数	参加者数
天神川	5	81	5	102	8	166
荻野	4	59	3	56	4	70
稲野	4	89	4	85	7	141
鴻池	7	115	6	119	6	119
伊丹	5	106	12	216	13	291
摂陽	5	139	6	157	7	176
笹原	7	123	10	190	10	187
鈴原	5	123	5	124	6	139
桜台	2	32	3	40	4	128
池尻	5	165	4	136	4	136
花里	2	29	5	87	5	87
昆陽里	8	113	8	112	9	125
神津	4	60	5	67	5	67
有岡	5	73	6	102	7	115
緑丘	3	55	3	62	3	62
瑞穂	3	61	5	105	5	93
南	6	100	6	123	8	144
合計	80	1,523	96	1,883	111	2,246

② 介護予防講座等の開催回数

内訳	基幹	天・荻	稲・鴻	伊・摂	笹・鈴	桜・池	花・昆	神・有	緑・瑞	南	合計
介護予防健康関係	0	19	21	10	37	8	16	14	10	27	162
いきいき百歳体操支援	3	43	47	59	45	14	20	30	19	52	332
制度関係その他	0	4	17	5	19	3	6	0	0	33	87

③ いき百サポーター養成講座の開催

ボランティア・市民活動センターとの協働により、高齢化等に伴い、リーダー不在等の課題を抱えている「いきいき百歳体操」運営グループの支援および新規立上げ支援等を目的に、いき百サポーター養成講座を開催した。

④ もの忘れ検診及びロコモティブシンドローム検診後のフォローアップ

もの忘れ検診・ロコモティブシンドローム検診受診者のうち、医師の判定が「要二次検査」に該当した方に対し、電話等で状況把握を行うことで、支援を要する方を早期に把握し、医療機関や介護予防活動等につなげた。

	検診受診者数	要二次検査者数	(再掲) 両検診ともに 「要二次検査」該当者数
もの忘れ検診	13,018	269	174
ロコモ検診	13,018	1,972	
案内や支援につなげた件数			
介護保険・福祉サービス等	289		
講座の案内	122		
地域の集いの場・健康教室等	184		

4) 介護予防ケアマネジメント（指定介護予防支援事業）

9か所の地域型包括支援センターは、指定介護予防支援事業者として、「要支援1」または「要支援2」の認定を受けた人の生活や心身の状態、取り巻く環境等を把握したうえで介護予防サービス・支援計画書（介護予防ケアプラン）を作成し、自立支援に向けた介護予防ケアマネジメントを実施した。

(1) プラン作成件数及び評価実施数

	天・荻	稲・鴻	伊・摂	笹・鈴	桜・池	花・昆	神・有	緑・瑞	南	合計
作成人数	309	265	429	589	274	298	300	297	250	3,011
作成数	536	430	713	1,021	482	520	482	511	433	5,128
評価数	314	247	402	631	282	321	283	312	259	3,051

(2) 評価の状況（件数）

A維持 が 2,139 件と最も多く全体の約 70.1%を占めており、B改善 は 177 件で全体の約 5.8%であり、A維持とB改善をあわせた利用者が 75.9%となったことから、適切なケアマネジメントに取り組み状態悪化の防止を図ることができたと考えられる。

	天・荻	稲・鴻	伊・摂	笹・鈴	桜・池	花・昆	神・有	緑・瑞	南	合計
A維持	206	176	294	450	206	232	184	209	182	2,139
B改善	25	10	21	20	14	27	21	21	18	177
C悪化	68	47	75	132	52	45	60	57	47	583
Dその他	15	14	12	29	10	17	18	25	12	152
E評価なし	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	314	247	402	631	282	321	283	312	259	3,051

5) 包括的・継続的ケアマネジメント業務

(1) 連携会議等への参加

高齢者の生活支援を継続的に支援するため、認知症対応向上委員会（伊丹市医師会が開催）や地域密着型サービス事業所連絡会、地域連携担当者連絡会等、地域の多様な関係機関と連携を図った。

(2) ケアマネジャーへの支援

① 介護支援専門員連携会

市内の居宅介護支援事業所に所属するケアマネジャーの連携体制の強化と相互の情報共有に合わせて包括・行政との連携の強化、情報共有の促進を目的として開催した。

	内容	実施日	実施場所
第 1 回	①介護予防及び介護予防ケアマネジメント業務について ②伊丹市ケアマネジメント支援会議について ③伊丹市自立支援ケア会議について	4 月 25 日	中央公民館
第 2 回	①伊丹市認知症初期集中支援チーム ②伊丹市自立支援ケア会議の実施状況等について ③意見交換会	10 月 3 日	ラストホール

② 包括的・継続的ケアマネジメント研修

ケアマネジャーをはじめとする介護サービス事業所職員などの専門職の支援スキル向上を目的とした研修会を開催した。対人援助スキルや制度理解、高齢者虐待防止等の幅広いテーマについて多職種で共通して理解を深める場となった。

実施日	内 容
12 月 20 日	「法律からみる高齢者虐待対応について ～本人も、養護者も、専門機関も守るために～」 山村力法律事務所 弁護士 山村 力 氏
1 月 15 日	「自立支援・介護予防につながる視点を磨く ～効果的な自立支援ケア会議の開催に向けて～」 津山市役所 健康増進課 主幹・高齢介護課 主査 作業療法士 安本 勝博 氏
2 月 13 日	「傾聴することで本人の「思い」を明らかに！ ～世界に一つの本人のプランへ～」 藍野大学短期大学部教授 特定非営利活動法人 YOU 医療保健福祉研究所 理事長 足利 学 氏

実施日	内 容
3 月 30 日 ※中止	「民生委員児童委員・介護支援専門員合同研修会」 一般社団法人 コミュニティーネットハピネス 代表理事 土屋 幸己 氏
3 月 10 日 ※中止	地域包括支援センター職員研修 「気づきの事例検討会」スーパーバイズ 兵庫県介護支援専門員協会 気づきの事例検討会推進委員 特別養護老人ホーム さんすい園 施設長 前川 嘉彦 氏
3 月 ※中止	地域包括支援センター職員研修 「口腔ケアとフレイル予防について」
①6 月 20 日 ②10 月 17 日 ③1 月 15 日	地域包括支援センター職員研修 (レビュー会議内研修) ①「伊丹市福祉権利擁護センターについて～センター業務と役割～」 ②「高齢者支援における生活保護制度について」 ③ 「成年後見制度申し立て書式について」

③ 伊丹市ケアマネジメント支援会議の実施

<目的>

事例検討や意見交換を通じた、ケアマネジャーの支援(人材育成)とケアマネジメントにおける地域課題の抽出、必要な資源等の提案(地域づくり)等。

<出席者>

基幹型・地域型地域包括支援センター、各圏域の主任ケアマネジャー

<開催状況>

	内 容	実施日	実施場所
第 1 回	昨年度の振り返り、実績報告、 今年度のスケジュールと開催内 容の説明、意見交換 (5 月)	5 月 21 日 5 月 21 日 5 月 17 日 5 月 22 日	ときめきホール きららホール 伸幸苑 あそか苑
第 2 回～ 第 6 回	事例検討等の開催、振り返り (7 月、11 月、※中止) 地域課題解決に向けた意見交換 学習会開催 (9 月、1 月)	7 月 9 日、9 月 10 日、11 月 12 日、 1 月 14 日、※3 月 10 日	ときめきホール
		7 月 16 日、9 月 17 日、11 月 19 日、1 月 21 日、※3 月 17 日	きららホール
		7 月 26 日、9 月 20 日、11 月 15 日、1 月 17 日、※2 月 28 日	伸幸苑
		7 月 31 日、9 月 25 日、11 月 27 日、1 月 22 日、※3 月 25 日	あそか苑

<伊丹市ケアマネジメント支援会議を通じて見えた主な課題>

ア) ケアマネジャーとしての課題

- ・アセスメントが不足している
- ・多職種との連携
- ・ケアマネジャーとしての役割の明確化
- ・本人の意向確認と自己決定支援
- ・認知症や障害等について地域住民の理解が得られない

イ) 地域課題

- ・医療等多職種と連携しやすくなる仕組みづくり
- ・介護保険サービス外の支援ができる地域づくり

- ・認知症や障害等の理解を深め、支えあえる地域づくり

④ 地域包括支援センター主任ケアマネジャーでの居宅介護支援事業所への巡回訪問

居宅介護支援事業所（市内 53 事業所）を基幹型包括と地域型包括の主任ケアマネジャーが巡回訪問し、各事業所の職員の状況やケアマネジメント業務の課題、包括に対する意見聴取を行った。

（３）地域ケア会議

① 個別ケア会議の開催

<目的>

高齢者一人ひとりの個別課題解決を第１目的とした事例検討及び地域住民と専門職のネットワークの構築。

<出席者>

基幹型・地域型地域包括支援センター、生活支援コーディネーター（社会福祉協議会）、本人・家族、民生委員児童委員、地域住民、医療機関、ケアマネジャー、介護保険サービス事業所等

<開催状況>

平成３０年度より、個別ケア会議が柔軟に開催できるように、参加者の見直しや使用書式の整理等を実施したが、開催件数が伸びていない。個別ケア会議が、必要な時に適切に開催できるよう、開催方法等について、再度検討していきたいと考えている。

	天・荻	稲・鴻	伊・摂	笹・鈴	桜・池	花・昆	神・有	緑・瑞	南	合計
H30 年度	8	1	3	1	1	1	0	4	5	24
H31 年度	2	2	1	0	0	3	1	1	1	11

② 伊丹市自立支援ケア会議の実施

<目的>

リハビリテーション専門職等がアドバイザーとなり、ケアマネジャーは専門的視点からの意見や提案・助言を受け、ケアプランを振り返ることによる、要支援者の自立と QOL のさらなる向上と自立支援に資するケアマネジメント力の向上。

<出席者>

理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、栄養士、歯科衛生士、基幹型・地域型地域包括支援センター、ケアマネジャー、介護保険サービス事業所、介護保険課

<開催状況>

参加したケアマネジャーからは、専門職の多角的な視点からの意見や助言があり、日々の支援の参考になった等の意見があった。

	天・荻	稲・鴻	伊・摂	笹・鈴	桜・池	花・昆	神・有	緑・瑞	南	合計
開催数	2	2	2	2	1	1	1	1	1	13
検討事例数	6	6	6	6	4	4	4	4	4	44

③ 多職種連携会議（地域ケア推進会議）の開催

<目的>

医療職と介護職等の専門多職種間の情報共有と主体的な地域課題の抽出・解決に向けた取り組み及び連携。

<出席者>

基幹型・地域型地域包括支援センター、医師、歯科医師、薬剤師、リハビリ専門職、ケアマネジャー、民生委員児童委員、介護保険サービス事業所等

<開催状況>

平成31年度は、参加する多職種の顔と顔の見える関係づくりとそれぞれの立場・役割の理解に加え、地域の課題から見えてきたつながりづくりや見守りにつながるツールの作成などを実施。

また市内全体での課題や取り組みの共有を図るため、地域包括支援センターや生活支援コーディネーターと共有会議を開催した。

包括圏域別 多職種連携会議 開催状況

	天・萩	稲・鴻	伊・摂	笹・鈴	桜・池	花・昆	神・有	緑・瑞	南	合計
H31 年度	2	3	3	2	2	3	2	2	2	21

（4）地域とのつながりづくり「民生委員児童委員地区懇談会」の開催

民生委員児童委員の改選や地域包括支援センター、ケアマネジャー、生活支援コーディネーターも新たな職員が配置されたこと等から、市内全域で一堂に会し、それぞれの活動や役割について理解を深めるための研修会の開催を3月に予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため延期となった。

6）認知症ケアの推進

認知症になっても住み慣れた地域で生活を継続するために、認知症の容態に応じ必要な医療・介護及び生活支援が有機的に連携したネットワークを形成し、認知症の人への効果的な支援体制の構築を目指している。また、認知症ケアの向上を図るための取り組みの推進を目的に、医療や介護の関係機関等の連携支援や認知症の人やその家族を支援する体制づくり等に取り組んだ。

（1）「認知症ケア多職種研究会」の開催

医師及び歯科医師、薬剤師、ケアマネジャーの専門職団体や、地域密着型サービス事業所、民生委員児童委員、認知症等介護者家族会の代表者等、認知症に関わることの多い関係機関等が協働し、伊丹市の認知症ケアにおける課題を共有し、必要な取り組みの検討、資源開発等につなげることを目的に開催した。

実施日	主な内容
5月22日	○専門職対象の研修について(参加対象者の拡充) ○認知症サポーター養成講座の受講者の活動の場について

実施日	主な内容
10月30日	○上半期の事業(認知症サポーター養成講座、専門職対象の研修等)について報告

(2) 「認知症ケア多職種協働研修会」の開催

医療及び介護に携わる多職種間での情報共有や互いの役割・機能の理解を深める機会として「認知症ケア多職種協働研修会」を開催した。

実施日	内容
10月10日	若年性認知症の方への支援について 久保田 寛 氏 (デイサービス昭和館 施設長)

(3) 「認知症サポーター養成講座」の開催

認知症の人と家族への応援者を養成する「認知症サポーター養成講座」を、市及び地域包括支援センター、キャラバン・メイトと連携し、平成31年度は62回、2,684人に開催した。

特に、平成31年度は、中学生から認知症についての正しく理解してもらうための取り組みが進み、中学校7校で認知症サポーター養成講座を実施し、中学生1,477人の認知症サポーターが誕生した。

(4) 認知症の理解・啓発

介護保険事業所や地域の団体等と連携し、認知症カフェの立ち上げ支援を実施した。

また、大型ショッピングモールと協働し、認知症理解・啓発イベントの運営や地域での研修会を開催した。

7) 高齢者実態調査の実施

ひとり暮らし高齢者及び要援護高齢者の実態を把握するため、伊丹市民生委員児童委員連合会の協力を得て高齢者実態調査を実施した。また、民生委員児童委員との連携により、必要な高齢者等に対して各地域包括支援センターがフォローアップ訪問を行った。

(1) 調査結果

	ひとり暮らし高齢者数			要援護高齢者数		
	計	男	女	計	男	女
H29年度	7,300	2,106	5,194	1,296	372	924
H30年度	7,463	2,162	5,301	1,200	336	864
H31年度	7,716	2,217	5,499	1,392	398	994

※H31年度より対象年齢が67歳以上に変更

(H29年度までは65歳以上、H30年度は66歳以上)

(2) 地域包括支援センターフォローアップ訪問件数

	天・荻	稲・鴻	伊・摂	笹・鈴	桜・池	花・昆	神・有	緑・瑞	南	合計
H31年度	27	42	74	46	26	35	68	47	49	414